

申1号 第27回定期大会発言に基づく申し入れ(その1)を行う!

JR東労組は、6月12日～13日にかけて新潟地本準備のもと第27回定期大会を開催し、東日本大震災を乗り越え被害を受けた鉄道を全組合員の総力で復興させるために奮闘することを確認しました。大会では、多くの代議員から3月11日に発生した東日本大震災と原発事故をめぐって被災した苦しみや将来への不安など多くの悩みが出されました。またその一方で、復興に向けて取り組んでいる最中に労働組合の排除とも言える会社の対応や、労使で確認した労働協約を反故にするかのような言動や行為に対する怒りの発言が出されました。さらに、国鉄改革から25年、JR発足以降初めて直面する雇用問題やプレス発表が先行し安全を脅かす事象や放射能に対する危機感など将来に対して不安の声が上げられています。したがって下記の通り申し入れを行いました。



■申し入れ項目

1. 東日本大震災に伴う工事復旧・運転再開時期や特別企画乗車券の発売などのプレス発表は、現場第一線で苦慮する社員の現状を踏まえおこなわれたことから、プレス発表のあり方を見直し関係する社員周知と作業実態を把握した上でおこなうこと。
2. 福島第一原子力発電所から50キロ圏内にある現業機関及び作業範囲にあたる職場に対し放射能測定器を配備すること。
3. 屋内外作業における1時間あたりの放射線量に対する作業基準を明らかにすること。
4. 現在ある地震および津波に対するマニュアルを明らかにし、今後の見直しなどの考え方を明らかにすること。
5. グリーンスタッフが安全で安心して働ける雇用制度をつくり上げること。
6. JR石勝線で発生した特急列車の脱線・火災事故に対し、車両部品落失による当社における車両の点検のあり方、及びトンネル火災時の避難誘導についての対策と教育について明らかにすること。
7. 飯山線踏切事故に伴う、踏切故障時の取り扱いについて系統毎に教育を統一させること。また、踏切故障時は踏切手前で一旦停止するなどの対策を行うこと。
8. 東日本大震災で被災し環境の変化等に伴い自殺、うつ病なども発生していることから、現在おこなっているメンタルヘルスケアについて明らかにするとともに、今後も継続した体制を確立し充実させること。
9. 優秀な人材を確保するために薬剤師6年制に伴う新規採用者の労働条件を向上させること。
10. 運転中止区間のバス代行は、震災復興の一翼を担うため、ジェイアールバス関東およびジェイアールバス東北の位置づけを明らかにするとともに、自治体や地域からの信頼を得るために必要な体制を確立すること。